

第 291 回

岩 手 朝 日 テ レ ビ 放 送 番 組 審 議 会

議 事 録

(2025 年 9 月)

2025. 9. 24

株式会社 岩手朝日テレビ

第 291 回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 2025 年 9 月 24 日（水）午前 11 時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ 本社 大会議室
3. 委員の出席

委員総数 8 名

出席委員数 8 名（＊：レポート参加）

委員長	小 松 豊	
副委員長	そのだ つくし	
委員	石 川 健 正	＊
委員	佐 竹 雅 之	
委員	高 橋 惣兵衛	
委員	松 澤 一 美	
委員	小 川 智	
委員	内 海 亮	

欠席委員数 0 名

会社側出席者名

代表取締役社長	畠 山 大
常務取締役	三 浦 茂 樹
メディアビジネス 推進本部本部長	
取締役	岩 淵 美 彦
兼放送番組審議会 事務局長	
報道制作部担当部長	矢 野 一
プロデューサー	
トラストネットワーク	隅 田 岳 弘
制作技術課マネージャー	
ディレクター	
番組審議会事務局	鈴 木 敦

4. 議 題

- (1) あいさつ
- (2) 10月単発番組・8月視聴率・8月視聴者応答記録
- (3) 合評課題について
「天津木村のへえ〜 岩手、それあると思います」
*①5月9日（金）・②16日（金）
24時15分〜24時45分にて放送
→方長老（ほうちょうろう）シリーズ①②
- (4) 次回開催について
日 時：2025年10月29日（水）午前11時〜
場 所：岩手朝日テレビ 本社 大会議室
合評課題：「福田こうへい&天津木村
岩手なんだりかんだり気まぐれ道中」
- (5) その他

5. 概 要

天津木村さんが岩手県民でも「知らないコト」「見たことがないコト」を探るバラエティー番組。今回は盛岡の経済・文化の面で大きく影響を与えた偉人「方長老（ほうちょうろう）」の残した足跡をたどった。

合評の意見

- ・地元の人にもあまり知られていない方長老に関する史実や伝説を分かりやすく紹介することで、知的好奇心が刺激された。
- ・出演者と番組スタッフの軽快なやり取りなど番組に手作り感がありつつも、伏線と回収の手法を使うことで、適切に視聴者の興味を引く構成となっていた。
- ・現在は金曜深夜での放送だが、より多くの視聴者獲得に向けた取り組みが必要ではないか。

6. 議事の内容

岩淵事務局長) 定刻になりましたので、第 291 回放送番組審議会を始めさせていただきます。ご出席の皆様、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は石川委員が所用で欠席ということでございます。

今回の合評課題は、「天津木村のへえ〜 岩手、それあると思います」から、5 月 9 日と 16 日に放送しました方長老シリーズ①、②につきましてご審議いただきます。

「天津木村のへえ〜」は、2022 年 6 月にスタート、岩手県民でも知らないこと、見たことがないこと、経験がないことなど、気になることなどを岩手の様々なジャンルから取り上げ、天津木村が県民と触れ合いながら、思わず「へえ〜」と言ってしまう人情紀行バラエティーでございます。

本日は、番組立ち上げから関わっているプロデューサーの報道制作部担当部長の矢野とディレクターの隅田が出席しております。率直なご感想、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

では、小松委員長、議事進行よろしくお願いいたします。

小松委員長) 皆さん、お疲れさまでございます。

では、まず初めに社長ご挨拶をお願いいたします。

畠山社長) 改めまして、おはようございます。

先週私、系列の社長会というのがあって、その系列の社長会で主な議題というか話された 1 つは、フジテレビ問題を受けての各放送局のガバナンス強化の指針を各社ごとに策定せよということと、もう一個はちょうど世界陸上の佳境だったのですけれども、大きい世界イベントの中で W B C の権利が地上波からなくなるという、ネットフリックスに決まって、前回うちと T B S さんが放送させていただいたのですけれども、特にうちは系列の中でも恩恵がすごくて、世帯でいうと何か信じられないような歴代視聴率を、前回うちは 4 試合やらせてもらって 62.6%、62.5%、57% みたいな、力道山の時代みたいな数字を頂戴したのですけれども、これがうちはなくなるという可能性が今ほぼ高いというので、テレビ朝日の早河会長が計算してくれたのですけれども、年間視聴率にこれがどれほど影響を及ぼすかというと、テレ朝でいうと 0.1% だということです、年間数字。多分うちはそうはいかないのですけれども、T B S さんの世界陸上は、T B S さんの年間を押し上げるのがやっぱり 0.1% では効かないぐらい上がるだろうと

というような話がある中で、WBCは何とか夜に、朝帯で決勝ラウンドをアメリカでやるので、夜にやらせてもらえないかという交渉を引き続きやっているみたいですが、機構を含めて、ちょっとまだというか、ほぼ難しいのではないかと思います。ことはおっしゃっていました。

あわせて、来年サッカーのワールドカップが北米中心にアメリカであるのですが、これもまだやっぱり権利が決まっていなくて、私も長年そういう系の仕事を向こうでやっていたのですが、本当にNHKと民放全社という座組でオリンピックもやってきたのが、その座組はもう絶対無理で、NHKプラス1社か2社みたいなので何とか収まらないかというので、今権利元というか、日本のエージェントも電通から博報堂に行って、もう一回博報堂がギブアップして今電通という感じで、なかなか今収まっていないと。

ただ、これ本当に見れないのかというと、ちょっと長くなりますけれども、本当の国際的なオフィシャルなやつというのは、オリンピックとかワールドカップみたいなのはオーケーなのですが、国とかが法律で縛ったりして、ヨーロッパなんかは早くから必ず無料で見れることというのが条件なのですが、ようやくアメリカでも最近そういう機運が高まっている中で、WBCというのは全く世界機構が関わっていない、ある種のエキシビションマッチみたいなやつなので、なかなかそこに政治的なあれができないというのが、今回それがひどい問題になっていました。

ちょっと冒頭長くなりましたけれども、今回の出張の社長会で話題になったことのご報告と、あと今日の「天津木村のへえ〜」なのですが、これは4年前天津木村君が来たときに朝の番組を、まさにさっき説明があったコンセプトでやってほしいということで「Go!Go!いわて」を始め、でもせっかくバラエティーのエロ詩吟の人が来たのだから、そっち系でやりたいということで、だったらそれは夜でやればいいのではないかと、夜に好きなだけそういうエロ詩吟的なものをやればいいのではないのと言って、朝を最初始めたのが矢野くんで、何か知らないのですが、最初の頃はバラエティーっぽくやっていたのです、「Go!Go!いわて」を。とにかくそれやめたほうがいいと、岩手でただ宮古といったら浄土ヶ浜とか、そういうのを全部やめて、宮古の人しか知らないこんなところあるよとかというのをやってくれとか、岩手は広いから、そんな文化あるのだみたいなのを「Go!Go!いわて」でやってくれと言ったら、私が知らない間に「Go!Go!いわて」から深夜番組の「へえ〜」のプロデューサーになっていて、深夜のほうが余計真面目な番組

になったという経緯で始まったというのは、今日の、たまたまですけれども、審議の前にご報告というか、そんな経緯で今のような感じになっていて、ちょいちょい、せっかくもったいないので、夜遅いので、昼にまとめて土日の午後帯とかで今放送しておりますというのをちょっと付け加えて、今日はどうぞよろしく願いいたします。

以上です。

小松委員長)

ありがとうございます。

では、事務局から単発番組、視聴率、対応記録についてご報告のほうお願いいたします。

岩淵事務局長)

では、10月の単発番組と8月の視聴率及び視聴者の対応状況についてご報告いたします。

まず、10月の単発番組、A4横のものをご参照ください。ローカルでは、本年2月に第1回を放送しました岩手初のトーク&ゴルフ番組「天津木村のGo!Go!Go!」を2回にわたってお届けいたします。また、9月13日から16日に開催された山田祭りの模様を紹介する特別番組を予定しております。「天津木村のGo!Go!Go!」は、岩手県内のゴルフ場を舞台に、ゲストと天津木村が対決を繰り広げながら、ゲストの仕事やプライベートに迫る内容となっております。

ローカル以外では、男子ゴルフ、アジア唯一のPGAツアー公式戦ベイカレントクラシック、女子ゴルフ、富士通レディース2025、サッカー日本代表戦、キリンチャレンジカップ2025日本対ブラジル、新体操イオンカップ2025、フィギュアスケートグランプリシリーズフランス大会の熱戦の模様をお届けいたします。単発番組につきましては、以上でございます。

次に、8月の視聴率について、まず緑色の個人全体視聴率からご報告いたします。当月は、全日が民放2位、ゴールデン、プライムが3位となりました。ゴールデンは、火曜と木曜のドラマがいずれも伸び悩み、順位に影響をしています。全日は、土曜の午前が高数字で推移しており、分けても「Go!Go!いわて」は1部4.1%、2部4.8%と、裏局の3.3%を上回るいい高数字をキープしております。

続きまして、青色の世帯視聴率では、全日が民放2位、ゴールデン、プライムは共に2位となりました。8月の視聴率につきましては以上でございます。

続きまして、8月の視聴者対応状況、こちらもA4のエクセルをご参照ください。電話が5件、メールが11件の計16件

でした。その内訳は、質問が 5 件、要望が 3 件、意見・苦情が 1 件、その他 7 件でした。内容は、お配りした資料をご参照ください。

事務局からの説明は以上となります。

小松委員長)

ありがとうございます。

では、ただいまの事務局からのご説明につきまして、皆さんのほうから何かご意見ですとかご質問あれば、お願いいたします。なければ、合評課題のほうに移らせていただきます。今日の合併課題のほうは、先ほどありましたとおり「天津木村のへえ〜 岩手、それあると思います」の 5 月 9 日と 16 日に放送された 2 回分となっております。今日は、佐竹さんのほうからお願いします。

佐竹委員)

それでは、今回の「へえ〜」であります、盛岡の経済、文化の面で大きく影響を与えた方長老様の残した足跡をたどりながら盛岡の歴史を探る番組ということで、バラエティーでありながら歴史の番組で、私自身、規伯玄方、方長老様のことは全く知りませんでした、本当にとても見やすく、興味を持ちながら視聴させていただきました。

今回のこの 2 つの番組は、方長老シリーズの導入部分ということで、起承転結でいえば起承まで部分だったと思いますけれども、いずれシリーズの後編に期待感を持たせるような構成、本当に構成がとてもよかったなというふうに感じます。

オープニングの企画会議であずまやの馬場社長であるとか、あとは歴史文化館の学芸員の福島さんですか、いずれ方長老様を説明しながらも、本当は実は全く詳しくは知らないの、盛岡で何をしたのかとか、対馬からなぜ盛岡に来たのか、こういった部分は「なぜ?なぜ?」がやっぱり視聴者にたくさん疑問を抱かせ、続き見たいくなるような、そんなつくりになっていたというふうに思います。これからその疑問の答えを探しに行く、まさしく方長老様を探ろうというテーマにぴったりだったと思います。謎めいた方長老様を探るという、解き明かしていく過程、プロセスが本当に面白く感じました。

あと、全体的な話をすれば、私自身は最後まで方長老シリーズを見ていませんが、この後対馬に行ったらいいのですけれども、ユーチューブで少し 5 シリーズぐらいまでは見たわけですが、最後まで見ていませんが、結論は分かりませんが、いずれこういう地域の経済とか文化の発展の裏には、このような様々な歴史があり、人と人とのつながりがあってこそだと本当に感じましたし、このような地域の歴史とか文化を紹介していくというのは、やっぱり地方テレビ局ならで

はというか、それがその役割だということで改めて感じたところですよ。

そういう中で、少しつながりという面で欲を言えば、やっぱり冒頭馬場社長が、1985年に南部もりおか暖簾の会が方長老350年まつりですか、開催されたということですが、なぜ南部もりおか暖簾の会が方長老の350年まつりを企画したのか、その辺ももう少し深掘りしてほしかったなというふうに思いました。

また、方長老がいた、盛岡にいた1930年以降ですか、江戸時代の盛岡がどのようなまちだったかも興味を持ったのです。その辺り、時代背景であるとか、南部家や盛岡城を中心にした盛岡の町並みとか盛岡の人口、その辺りも紹介があれば、やっぱり方長老様の盛岡への貢献度はもっとより伝わったのかなというふうに感じたところでございます。

最後になりますが、「天津木村のへえ〜」ですが、今回の方長老シリーズに限ったことではありませんが、先ほど畠山社長からも少しコメントがあったとおり、番組的にはゆるく深夜にリラックスしながら、イメージ的にはテレビというよりはユーチューブを見るという感覚であります。非常に天津木村さんが自由度が高く、個性を存分に発揮している番組だと思いますが、何となく新しい切り口、テレビではないような切り口ですので、実際の県内の視聴者の評価であるとか、そういう（番組スタッフの）おじさんズ等の評価、評判も含めて、視聴率、その辺りを少し最後に、分かる範囲で教えていただければなと思いながら見ました。

以上です。

小松委員長)

ありがとうございます。

では、惣兵衛さん、お願いします。

高橋委員)

今回1、2が私の中でティザーを打たれている感じがして、この続きどうなっているのだろうと思って、ユーチューブ調べたら続きが出ていて、今大事なところまで見ました。帰ってから続きも見なければいけないところになっております。まんまとはまりました。面白かったです。

全くこの方のこと知らなくて、お恥ずかしいのですけれども、全く知らなくて、規伯玄方さんというもとの名前があって、景轍玄蘇さんの門人であって、対馬からやってきたということは1ミリも知りませんでした。しかし、24年間御沙汰をして預かりの身になった間にたくさんのお話を盛岡に足跡を残されたということを通じてすごく面白く、堅過ぎず面白く伝えていただけて、とても勉強になりました。

あと、チーム（番組スタッフ）の人たちがちょいちょい出てくるの、私的にはいいなと思っていて、「ここに寄っちゃうだろう」みたいな、ああいういい感じの混ざり具合で気軽に見ることができました。

本当に知らない情報が満載で、アマドコロ、黄精飴の長沢屋さんとかも本当に知らなかったし、あと木津屋さんに商売の基礎を教えて行動規範みたいなのが残っていたりとか、物売りに掛け声、売り方とか何かもっと訴求しろみたいなのを教えたのかとか、細切れの情報からも人物像が浮かび上がってくる構成になっていて、とっても良かったです。

あと、すごく人間っぽかったのは、金に、これ本当書きたくなかったのだけれども、すごく仕方なく頼まれてしまったから書いてしまっていたみたいなのが残っているあたりとか、めっちゃめっちゃ面白くて、こういうバランスがすごくよかったなと思いました。ですから、皆さんぜひ続きを見ていただいて、朝鮮外交における対馬藩士とのあつれき、家老柳川調興さんとか、調興さんはどこに流されて、規伯玄方さんは盛岡に来てしまったのだなみたいなところも、続きもぜひ見ていただきたいと思いました。

気になったのは、御沙汰が終わって、許された後どうなってしまったのだろう、何で帰ってしまったのだろう、盛岡に住んでもよかったのにといいあたりも気になるので、ぜひその後も楽しみにしております。楽しく見させていただきまして、ありがとうございます。

小松委員長)

ありがとうございます。

では、つくしさん、お願いします。

そのだ副委員長) 私は、ちょっと 1、2 しか見ていなかったのですが、続きも見ようと思います。

盛岡市のプロデューサー、もちろん私も知らなかったです。ただ、本当にプロデューサーなのかコンサルタントなのか分からないのですけれども、方長老さんという方がどれだけ盛岡市に功績を残したかというもののたたえる番組なのかなと思ったのですけれども、天津さんが本当に何も知らない状態からだんだん分かっていく感じの流れとか、「なぜ？」から芋づる式に進んでいく展開というかつくりが面白くて、そこからどんどん行くのですけれども、そんなお金かけていないというところが、みんなで制作、手作り感があって、今のバラエティーではなかなかできないような、平成の初期のお笑い番組というか、バラエティー番組みたいなので、スタッフの方々も面白くちょこちょこ、ちょこちょこ出てきて、そのやり取りがすごく面白かったです。

馬場社長がしょっぱなから出て、わんこそば入っていなかったり、そういうところとかも、小ネタがすごく多いので、私たち世代というか、50代、40代にすごく刺さるような展開になっております。

あとは、もともとぶっちゃけ今の言葉で言うとテロリストとか、罪を犯して流されてきた人なのですけれども、当時の南部の殿様はどれだけ自由にさせたのかというのがすごく疑問があって、そのときの概念とかも知りたいなと。南部藩は、意外と性格的にゆるゆるしている感じが私はイメージがあるので、徳川家から虎ももらったり、いろいろ受け入れるけれども、逆らえないみたいな性格なのかなと思うのですが、方長老さん自身はすごく使命感が強く、罪人の意識もちゃんとあり、だけれども盛岡市をテロリストでもないのですけれども、反逆者みたいな、似たようなことで御上に逆らわないようにせず、逆に榮えさせたというのはすごくありがたかったなと。今だとそういう感じの犯罪を犯す人は、あちこちに派遣してはいけないのですけれども、だけれども本当に方長老さんというのは、いい人というよりも、物すごく使命感を持った方で、これが明治維新とかの時代だったら盛岡藩はどうなっていたのだろうというちょっとドキドキ感もありながら拝見させていただきました。

流れもすごく、深夜なのもあり、スピード感があえてあまりないというのが面白い、突っ込みとかも天津さんがすごく上手なので、スタッフの方とのやり取り、あとちょこっと入る女性アナウンサーさんの解説みたいな感じのコメントとかも入って、面白く、お酒飲みながら、飲めないですけれども、お酒飲みながらゆるっと、寝る前に見るには、見るのだけれども、ためになるから結局眠れなかったみたいな感じの流れにするという狙いなのかは知りませんが、そういう感じで、今回はちゃんと続きまで最後まで絶対見ますので。よかったです。面白かったです。ありがとうございます。

小松委員長)

ありがとうございました。
では、松澤さん、お願いします。

松澤委員)

私「天津木村のへえ～」は、いつも最後まで見たことがなくて、冒頭は見るのですけれども、寝てしまって、見れないことが多い時間帯です。

その中で、今回番審の関係があったので、このシリーズ拝見しました。非常に好感を持って拝見しました。というのも、移住されて木村さんが全く無関心なところから調べていくという、例えば宮沢賢治が好きで、そのことを深掘りするので

はなくて、興味がないところから与えられたものを深掘りとか探しに行くというところが、移住者とか転勤者にとってはハードルが低くていいとか、同じ目線で見れるところがいいなというのと、そこに方長老の言葉とか地域文化の奥深さが際立って混ざってくるので、今まで知っていたことを改めてつなげることができたのです。というのが、黄精飴とか木津屋さんとか、出てきたものは見ていたり知っていたり私はしたのですが、その歴史とか由来というのが全く逆に聞いてもちょっとなくて、実は南部家の菩提寺の聖壽寺さんとかに黄精飴のことを伺っても、禅宗のお坊さんが考えたのですよという説明だったので、それからすると、今回知っていた情報に歴史とか、それがつながりました。ですが、深夜帯とか、つくりからいったら勉強とか教養という部類とはちょっと違うのかなと思って、どちらかというところから分かるとかつながるというふうに展開した番組だったと思います。

方長老様が盛岡に与えた文化的影響が次々描かれることで、町並みで見ていたクルミの木のこととか、ご自身の身の上、預けられていたことと、その境遇が盛岡の人との交流を生んだのだなというところも思いはせることができました。

一方で、課題としては、やっぱり放送時間なのかなとちょっと感じておりました、深夜ゆえの見れる人がちょっと限られるのかなというのはちょっと気になりました。内容がよかったですだけに、たくさんの人が見ればいいのには思いましたが、再放送されているのちょっと私存じ上げなかったもので、それから思うと、私は休日の朝とかいいのではないかなというのは、7時前とかでも緩く、でも学びがあって見入ってしまう時間としてはどうかなというのは思いました。深夜放送で、最初は昼とか、よく見れる時間に移動すればいいのにと今日言おうと思っていたのですけれども、(放送時間は)朝だなとちょっと感じたところです。

この番組は、木村さんに焦点当たっていますけれども、同行する制作スタッフの方々が岩手をどう見詰めているのか、あんまり知らないなみたいなのところからもしかしたら始まっているのかもしれないし、そうした木村さんと制作スタッフさん、皆さん、あそこにいらっしゃる三、四人、木村さん入れた4人ぐらいの冒険みたいな、学びの機会なのかなという、仲間が伝わる番組であるとも感じました。

以上です。

小松委員長)

ありがとうございます。
では、小川さんお願いします。

小川委員)

天津木村さん、「天津木村のへえ〜 岩手、それあると思います」のほかに「G o ! G o ! いわて」でも活躍されていますけれども、詩吟ネタでデビューした当時からよく知っていました。岩手に活動拠点を移されてから、テレビ番組等によく見かけるようになりましたけれども、お笑い芸人さんの中でも落ち着いたキャラクターが岩手の風土にマッチしたのだというふうに感じました。

今回の方長老シリーズでも、おじさんズとのやり取りとか、訪問先の出演者との会話も非常に軽快で、番組の進行が大変スムーズであったように感じました。また、場面場面の間に挟まれた文字の説明画像も何となくクラシックな感じがして、映像効果があったかなというふうに思いました。

方長老に関する史実とか伝説を東家さん、それからもりおか歴史文化館、それから北山の法泉寺、長沢屋さん、そして南大通の木津屋さんへとひもといっていくという感じの内容は、盛岡出身の方であっても、来盛した人であっても、この土地の歴史を学ぶ上では非常にためになる内容であったかなというふうに感じました。実際に東家さんの方長老様という冊子体を行ったときに読んでみたくなりましたし、内丸の時鐘は見たことありましたので、もりおか歴史文化館でウィットに富んだ感じで紹介していただいた花巻にある時鐘というのも見てみたくなりました。

法泉寺さんのクルミの木とか、盛岡シダレザクラというのは知らなかったのですが、そういったものを見るのに庭園に行ってみたくになりましたし、南禅寺由来ということも初めて知りました。もちろん黄精飴も食べてどうなのかというのは分からないですが、一回は食べてみたいなと思いましたし、番組を見たきっかけで規伯玄方さんという方長老に関しても少し興味が湧いてきましたので、せっかくチャンスをいただいたので、少し深掘りしたいなという印象も湧きました。最後にコント的にスタッフが先に味見してしまったというのも非常にいい終わり方で、番組のエンディングとしては非常に効果的だったのではないかなというふうに思います。

個人的には、車を運転するので、市内を走る旧奥州街道に関してはグーグルマップをよく見ていて、県道 125 号との関係というのも見えていたのですが、清水町に入る交差点のところに石碑があるというのは気づきませんでしたので、今度車で通ったときにどこにあるかちょっと確認したいなというふうな気持ちにもなりました。

内容が今後もあまり重くならない程度にバランスを取って

いただいて、視聴者に分かりやすい郷土をご紹介いただければなと思います。

以上です。

小松委員長)

ありがとうございます。

では、内海さんお願いします。

内海委員)

「天津木村のへえ～」というのは初めてじっくり拝見いたしました。方長老さんという人は、僕も全く知らなかったのですけれども、盛岡の基礎をつくった人物ということで、とても面白く番組を見させていただきました。すごく好奇心をくすぐられるというか、ある意味じらされているというか、何かそんな進め方で、予備知識もなく見たので、なぜ方長老さんが南部藩に来たのかとかという問いに、国書の改ざんという話が出てきたのですけれども、国書の改ざんというのは一体何というのがすごく気になって、1回目そのまま終わってしまったのです。何だろうと思って、これ大事だろうとか思ったら2回目には出てきて、3泊4日とかいう言葉のキーワードがあって、でも盛岡だけでやるとか言っているし、一体どんななのだろうなど。これ2回目では行かなかったけれども、対馬に行くことになると思うのですけれども、対馬に行かなかったら相当僕は怒っていたと思うのですけれども、こういう番組なのだと思って、すごく楽しく僕は見させていただきました。

好奇心をくすぐられるという意味で、本当は国書の改ざんとあったときに、1回目見終わったときに僕自分で調べようかなと思ったのですけれども、もしかしたら2回目出てくるのかもしれないなと思ったら、やっぱり出てきて、さらに深掘っていくと。対馬にも行ってということで、朝鮮との国交に関する問題とかも出てきて、面白いつくり方だなというか、すごく作り手としてうまいというか、次へ、次へというのが、最初若干ストレスがあったのですけれども、それがフリか、こういう番組と分かっていたら、次どんな仕掛けで来るのかなというのが見られるのかなという感じで、すごく楽しく見させていただきました。

これは、伏線があって回収というか、何かそういう感じ、お笑いでよくあるパターンだと思うのですけれども、それで後で合点がいくというつくりにすごく感心しました。今テレビもそうなのでも、ユーチューブでも見るにはこういうのがすごく効果的なものだろうなと思っておりました。

僕は、お笑いがすごく大好きなので、ちょっと一ファンとして思ったことが幾つかあって、一般の人が、スタッフも含

めた内輪ネタ、僕はすごく面白いのですけれども、岩手の視聴者の方がどうやって見ているのかなというのはちょっと気になりました。カメラを振ったり、僕はけたけた笑っているのですけれども、あと「飴食ってるじゃねえか」とか何か言って笑ってしまう小ネタとかを、そこを岩手の人はどう見ているのかというところが一瞬ありました。

天津木村さんは、僕お笑い好きと言いましたけれども、最初すごくとがっている芸人さんだと聞いたことがあって、エロ詩吟にたどり着くわけですけれども、だから今はすごく毒がないというか、よどみなくMCとして流れるうまさにすごく感心したのですけれども、何かあの人はもっと本当はちゃめちゃん人なのではないのかなというのを、多分お笑いファンの人はそう思っているような気がするのではないかなと思って、それだから岩手の人は、昔の天津木村さんを知っているのか知らないか分からないけれども、これだけ天津木村さんが岩手で受け入れられているのは、僕はすごく興味があって、もっと取材したいのですけれども、天津木村さんは多分こういう人ではないのではないかなと僕は実は思っていたりもして、毒とかを今全部隠してやっているのかなというふうに見えてしまったりもするのです。お笑いが好きな人は、多分そういう見方もしている。ただ、これはこれすごいMC力というか、こういう天津木村さんもいるのだというので、すごく感激というか、見て思ったところでありました。

あと一つというか、これ毎週夜中に放映しているのですけれども、だとすると1週間を待つのが今の時代はすごく長いスパンになってしまって、今回僕もユーチューブで一気見してしまって、お笑い結構見るのですけれども、結構ユーチューブで一気見することが多いのです。一気に見るとすごいので、これを要はテレビで毎週やっている一方で、ユーチューブで無料で全部これを出していますよね、きっと。無料でこれ全部出して、収益とか、分からないですよ、戦略的に会社としてどうなのかなとは思ったりしたのです。というのも、僕ら新聞社だと、例えば新聞記事で出したものを全部公開するものと、全部公開しないものに分けていて、今流れとしてはあまり全部外に出さないようにして、できるだけ自分のところに、外には出さずに、朝日新聞を読んでもくれる、お金を払ってくれる人だけにこれを読ませるということなので、さっき佐竹さんから視聴率の話がありましたけれども、ユーチューブで見ている人は結構多かったりするのかなとか、その辺の考えがもしあったら聞きたいなと思いました。すごく面白い番組でした。

以上です。

小松委員長)

ありがとうございました。

では、本日欠席の石川さんの部分を事務局のほうからお願いします。

鈴木事務局員)

石川委員のレポート頂いておりますので、そちらのほう代読させていただきます。

この番組は、新番組としてスタートした当初の合評課題になったと記憶しておりましたので、確認しましたところ、2022年6月開催の番組審議会の課題番組でした。当時、金曜日の深夜に放送するローカル局制作のバラエティー番組は、他局ではなかったというか、今もないようですけれども、こうした取組にIATさんの挑戦的で意欲的な姿勢を感じたと当時コメントさせていただきました。以来3年余りが経過し、私が欠かさず見る番組の一つになっています（とは言っても、夜遅い放送なので録画で見ているのですが）。

この番組は、企画会議と称する飲み会で始まるパターンと、早朝の現場から始まるパターンがありますが、いずれもおじさんズが木村さんのみならず、視聴者も本当にいらいるほどにもったいぶって、今回の番組テーマを言い当てさせるという冒頭の展開が嫌いではないです。また、裏方であるべきディレクターやカメラマン、番組内で助っ人と呼ばれる音声さんまでが堂々と画面に映るだけではなく、どんどん木村さんとかけ合いを展開するところに、最初の頃は内輪で盛り上がってどうなのかなと思うところもありましたが、今では完全にこの番組のスタイルとして定着したと思いますし、おじさんズと助っ人抜きにこの番組は成立しないと言っていいほど、その存在感は大きいと感じています。

今回の展開は、毎回岩手に関するアカデミックなテーマを設定し、そのテーマについて木村さんと、演出なのか素なのかは分からないポンコツな感じのおじさんズが危なっかしい感じで調査を進める展開ですが、そうした演出だからこそ、アカデミックなテーマでも、肩肘を張らずに興味を持って見れている気がします。

また、設定する番組テーマも、毎回岩手に住んでいる者であれば人に説明できる程度に知っておきたい興味深いテーマばかりであり、実はおじさんズはお酒を飲まない真面目な企画会議をしっかりと時間をかけてやっているのだろうと思います。

今回のテーマは、方長老様を探ろうでしたが、そもそも方長老様の存在を私は知りませんでしたし、当時中央では普通にあった技術、文化、知識を盛岡に数多く伝えた方というこ

とを知ることができて、とても勉強になりました。

番組が始まって3年が経過し、毎回の新しいテーマを選定するのはとても大変だと思いますが、これからもテレビの前「へえ～」と思わずうなってしまうようなテーマを期待しています。
以上です。

小松委員長)

ありがとうございます。今回皆さんからいろいろ貴重なご意見いただきまして、ありがとうございます。

私から、皆さんとかぶらないところでちょっとコメントさせていただきますと思います。私も、ちょっと申し訳ないのですけれども、あんまり見たことがなくて、ずっと前に、正しいかどうか分からないですけれども、八幡町をぶらぶらして、日本酒飲んだりワイン飲んだりとかという回がたしかあったような気がしたのですけれども、そのイメージが物すごくあって、結論から言うと、この2回分見たところで非常に、緩いところもありますけれども、トータルで真面目な番組だなとちょっと思っていました。

その中で、ちょっと1個ずつコメントさせてもらいますと、私も方長老様というのは全く存じ上げなくて、非常に私自身も勉強になりました。最初の五、六分ですか、馬場さんが出てきて、何か空のわんこそばを持ってきて、1回見ただけだとちょっとよく私には分からなくて、ただ天津さんの知り合いだから出ているのかなみたいな感じがして、でもよくよく聞いてみると、自費出版した書籍が馬場さんのお父さんで、すごい人がいたのだよということを後世に伝えたくて自費出版したということは、何かすごく有意義というか、意味があることだったのだなというふうに思っております。

その緩い感じから突然、歴文館に行って福島茜さんがいらして、突然学術的な展開になってしまっているのも、なんだなんだと思っているうちに、どんどん、どんどん方長老様がどういう人だったかというのを説明したというふうな流れなのですけれども、福島さんの説明が非常に分かりやすく、簡潔で、非常に入りやすいというか、皆さんのコメントにもありましたけれども、何かお酒飲みながらとかと言っていましたけれども、お酒飲みながらこの真面目な話入ってくるのかなとちょっと思ったりもしたのですけれども、でも盛岡にこういう方がいらしたということはすごく勉強になりました。

自分としては、お預けという言葉がすごく響いてきて、悪いことをしているのだけれども、お預けという言葉自体はすごく柔らかいというか、でも過去にこういうことがあったのだなというふうに、私自身もあまりにも勉強不足だなという

ふうになんて反省しております。

ちょっと気になっていたのが、歴文館の福島さんと天津さんの絵を撮っているときに、ガラスケースか何かの前だったので、照明がちょっと光っていたのが何となくすごく気になって、できれば違うガラス的ではないパネルの前とかのほうは何となくよかったのかなというふうに思っています。ただ、突然雰囲気変わって、天津さんが「これ何やってんの」とかいう、ああいうのもすごく個人的には非常に面白いなというふうに思って見ていました。

2回目に移りまして、北山の法泉寺さんに、誰も方長老さん知らないはずなのに、突然物まねやり出して、住職にどうですかみたいな感じのところがすごく、これは天津さんでないとできない芸当だなというふうに、その部分も面白かったですし、盛岡のシダレザクラとあったのも私分からなくて、この場所は某住宅メーカーさんが花見をやる場所だなと思ったぐらいだったので、やっぱり盛岡を象徴する桜だったのだろうなというふうに思っています。

方長老さんを深掘りしていく中で、みそ、しょうゆの醸造とか清酒、あとはお薬とか牛乳とか、あとは商売の仕方とかという、これ今の商業のほとんど、盛岡のほとんどではないかなというふうに思っていて、出まして、何でここまでそんなにメジャーになっていないのだろうかと改めて思いました。それを説明している観光コンベンション協会のガイドさんも、盛岡藩士の桑田（そうでん）というところをお話していたので、そういうことをどんどん、どんどん探っていくと、ネタはたくさんありそうだなと同時に思いました。

最後に、松澤さんからもあったのですけれども、やっている時間帯を、今回の視聴率で言うと、さっきは2.何%とありましたけれども、ぜひ水曜日の19時の老舗地方ローカル番組にぶつけてもらって、ぜひここを勝負していただきたいなというような希望でございます。

以上でございます。

皆さんから何か言い忘れとか付け足しのところあれば、お願いしたいと思います。よろしいですか。

では、今日矢野さんと隅田さんいらしていますので、一言ずつお願いします。

矢野プロデューサー）貴重なご意見ありがとうございました。

基本天津木村さんには、台本という台本は渡しておられます。スタッフ間だけできちんとした台本をつくり上げて、木村さんには何も教えず、真っさらな状態から撮影をスタートさせていただいております。ですので、テレビで映っている

木村さんがそのままの本来の姿と。先ほど内海委員からもありましたが、全く木村さんは毒があるとか、そういう方では……

内海委員) いい意味で、です。悪い意味ではないです。
僕が言いたいのは。

矢野プロデューサー) 本当に何でも興味を示してくれる方で、我々が用意したテーマに毎回毎回頭を悩ませながら、テーマは一体何なのだとか、この後どこ行くのだとかというのを言っていたきながら、面白おかしく、やはりその辺は芸人さんですので、うまく自分をつくり上げながら、番組のことも考えていただき、出演していただいているという状況になっております。

今回の方長老様の件に関しましては、なぜ我々が取り上げたのかといいますと、これは視聴者の方々からのメールでした。こういう人がいるのを知っていますかというメールが来ましたので、正直私も知りませんでした。もちろん隅田も知らないというところで、ではどんな人なのかというのを我々のほうでまず調べまして、そうすると馬場さんに出会い、そこから馬場さんから教えていただきと、こういう流れで方長老というのをテーマにさせていただきました。

先ほど先生方からおっしゃっていただいた構成のつくり方、なぜ、なぜ、それをきちんと回収をしていくというのは、方長老の回だけではなく、ほかの回でもそのようなことを必ず念頭に置きながら、視聴者の方々により見ていただけるようにと、こういうのを考えて構成をしております。この後、今2本目まで皆さんに御覧になっていただきましたけれども、3本目以降はユーチューブで上がっておりますので、ぜひ見ていただきたいと。おっしゃるとおり、経費をここでちょっと使わせていただきまして、対馬に行ってきました。社長にはこっぴどく怒られるのですが、いろいろとその辺をわきまえつつ、今後とも制作していきながら、視聴者の皆様に寄り添って番組をつくり上げていこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

隅田ディレクター) では、私のほうからも。まず矢野が言ったように、私も方長老様を全く知らない状況で、メールで知って、この人は誰なのだろうというところから調べ始めました。そこで、実は歴史文化館の福島茜さんは、前々から取材をいろいろしていて、福島さんからいろいろと教えてもらって、今回方向性が膨らんだということになっております。そこで、実は40年前に方長老祭りというのを盛岡でやって、それが結構盛岡で

大々的に盛り上がったのだよというお話を聞きまして、そこも調べ上げたら、そこで馬場さんにたどり着いたというところでした。

佐竹様のほうからご質問あったのですけれども、暖簾の会がなぜ手がけたのかというところなのですが、その当時郷土史家の方と馬場さんたちが盛岡のまち、紺屋町を盛り上げようという飲み会をしていたときに、方長老様知っているか、いや、知りません、実はこういう方なのだよというところから、いや、面白い、では方長老 350 年祭りをやろうという形になって、対馬のほうから関係者も呼んだりして、川徳とか、あとパレードもやったりとか、いろいろ盛大的にやったそうです。

そういうのとか、あとちょっと番組上であまり出せなかったのですけれども、24 年間、南部盛岡藩で勤めて、帰った理由として、やっぱり盛岡の人たちが方長老様を生まれ故郷に帰してほしいとお殿様に嘆願したという話があって、そこで若い頃修行した、対馬まで戻るにはもう体力的には厳しいという、これは想像なのですけれども、そこで京都のほうに、南禅寺のほうに一旦戻して、最後は大阪のお寺で亡くなった。これは、ユーチューブ見ていただければと思うのですけれども、実は分骨されたお骨が対馬のお寺のほうにあるということも取材しております。

非常に我々もゼロからのスタートで、いろいろ勉強して、今回の放送でありました。皆さんもためになったというお言葉、意見いただいて、大変うれしく思います。ありがとうございました。

小松委員長) ありがとうございます。
皆さんからよろしいでしょうか。

佐竹委員) (シリーズの) 最後は7話ぐらいまでですか?
5話ぐらいまではユーチューブで見たのですけれども……

矢野プロデューサー) 毎週金曜日に公開をしていますので、今週は6話目です。

畠山社長) こっぴどく怒ったことは一度もないので。「Go! Go! いわて」もタイトルも含め、立ち上げまで私参加するのです。その後は、もう一切口を挟まないのですけれども、うちがやっている番組で一番収支が合わない番組です。でも、スポンサーさんが長年なかなか厳しくて、そうこうしているうちに勝手に沖縄行ったり、どこか行ったりするもので、いきなり最初北海道かな。どうなっているのだみたいな、大体毎回常

務会で収支が出るのですけれども、なかなか改善しなくて、一度午前帯もやったのです、土日の。午後とセットで売ろうとか、営業もいろいろ考えて、だけれどもなかなか駄目で、今「見つけ！いわて大特集」という、土日ほぼ各局テレビ東京さんの番組とかを買う、あれお金かかるのです。初めてうち自前であそこを埋められるから出銭が、それだけでも貢献しているだろうという、社内の批判を僕は助けているぐらいなのです。

おっさんズに関して答えていなかったのも、自分たちは多分いいと思ってやっているから答えなかったのですけれども、これは確かに評価は二分です、岩手の中では。あと、深夜だということと、日中帯で見せるときにすごく、(番組スタッフが)ビールを飲んだりしていることにしても、スポンサーの絡みもあったりとか、やたらスタッフが酒飲んでいるとか、いろんな苦情が来るので、今後はゴールデン帯を目指すというので、あとはやっぱりギャラクシー賞とか民放連大賞とかとあって、大体ヘビーなドキュメンタリーが毎年取るのですけれども、ぜひこういう感じで取って、民放連大賞は多分1,000万ぐらいもらえるような気がしたのです。大逆転で。先生方に全7話を見せるのはちょっと厳しいです。なので、おっしゃっていただいた1時間ぐらいのものにするのか、ちょっと分からないけれども、早く賞を取って、そうすると少し……というのをお願いしたいと。

小松委員長) では、最後に事務局から次回日程・合評発表テーマ・課題のほうをお願いします。

岩淵事務局長) それでは、次回についてご案内いたします。

 今回は、10月29日水曜日午前11時から、当会議室にて開催いたします。合評課題は、6月に放送しました「福田こうへい&天津木村 岩手なんだりかんだり気まぐれ道中」を予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

 本日はありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置

ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。

議事録を総務大臣、東北総合通信局長、日本民間放送連盟、BPO 及びテレビ朝日をはじめとする系列各局に配信する。

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

- ・ 10 月 11 日（土）午前 7 時 30 分～10 時 55 分 情報番組「Go！Go！いわて」
- ・ 本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
- ・ インターネットホームページに概略を掲載。

9. その他の参考事項

特になし

10. 配布資料

- ・ 10 月単発番組編成予定表
- ・ 8 月度岩手地区視聴率
- ・ 8 月視聴者対応記録